



2024年7月31日

各 位

会 社 名 日華化学株式会社
代表者名 代表取締役社長 江守 康昌
(コード番号 4463 東証スタンダード・名証プレミア)
問合せ先 取締役執行役員 管理部門長
澤崎 祥也
(TEL 0776-24-0213)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、本日開催の取締役会において、会社の持続的成長と中長期的な企業価値向上を図るべく、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて、当社の現状を分析・評価し、改善に向けた取り組み方針を策定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「中長期グループ成長シナリオ ～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について～」をご参照ください。

以 上

中長期グループ成長シナリオ

～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について～



日華化学株式会社
NICCA CHEMICAL CO., LTD.

(東証スタンダード：4463)

2024年7月31日

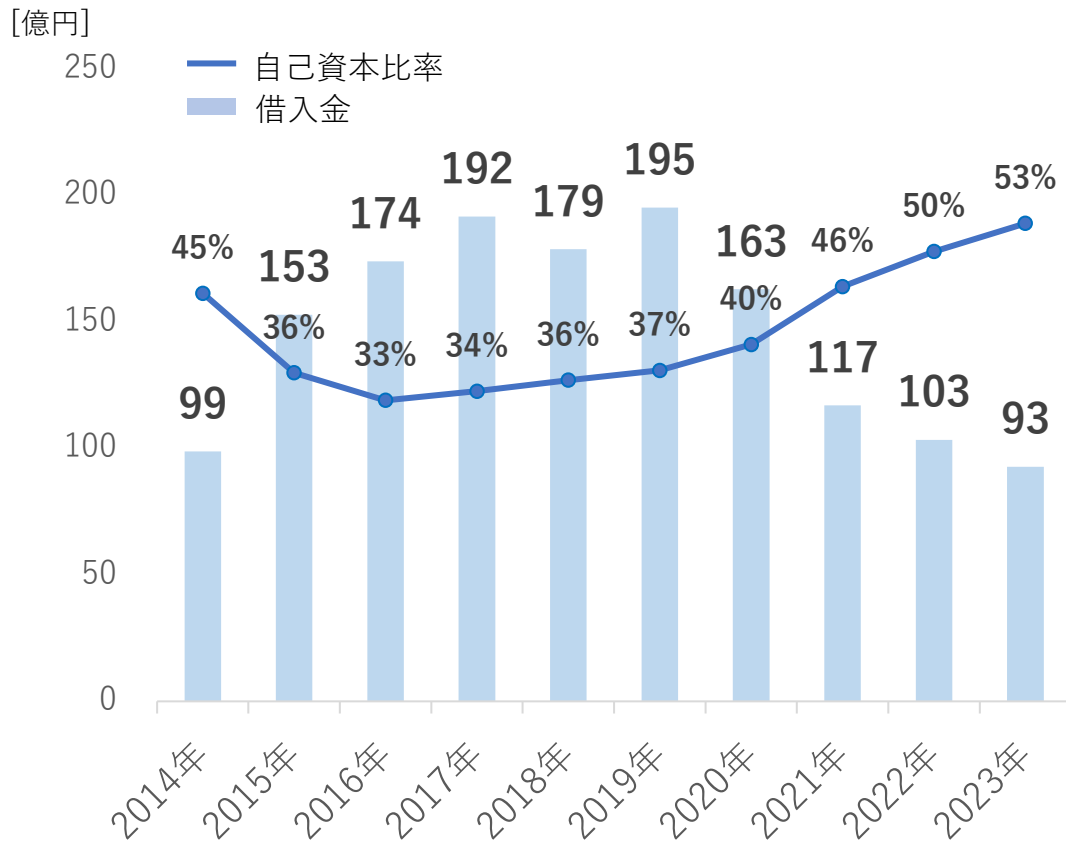
目次

- | | | | |
|----------|------------|------------------|-------------|
| 1 | ___ | 現状認識 | P 03 |
| 2 | ___ | 中長期的に目指す姿 | P 05 |
| 3 | ___ | 具体的な取り組み | P 06 |

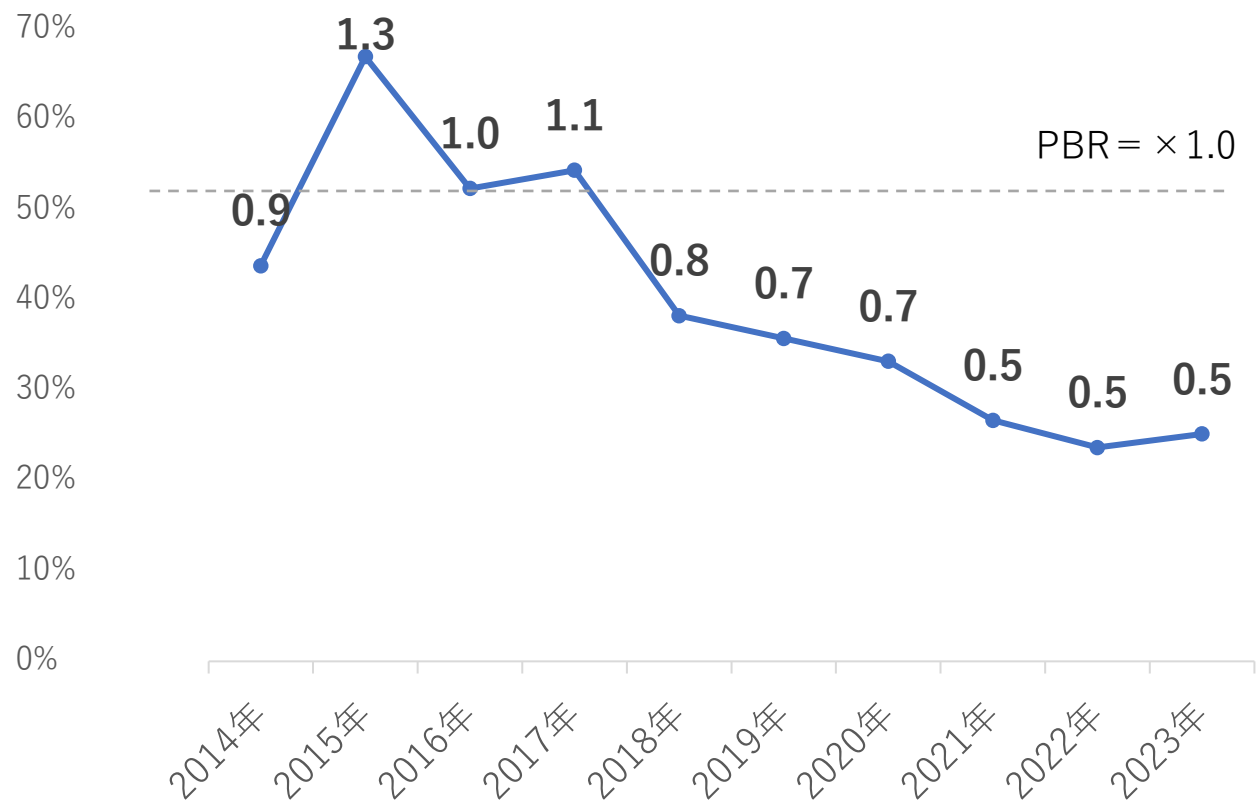
現状認識

当社PBRは近年0.5倍程度の低水準で推移

自己資本比率と借入金の推移（2014~2023年）

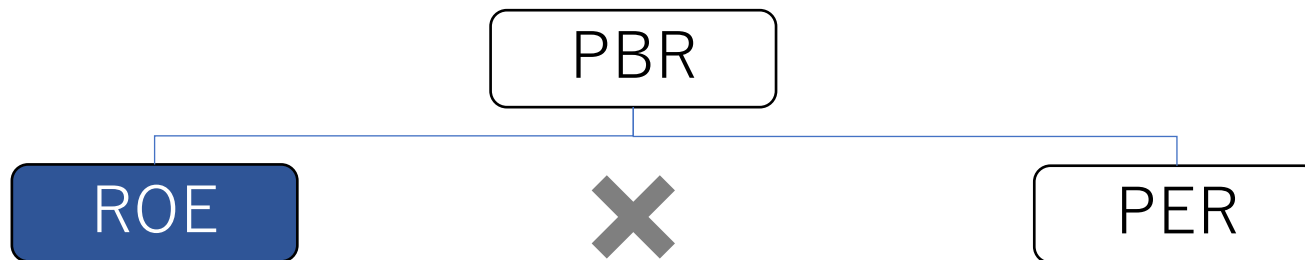


PBRの推移（2014~2023年）



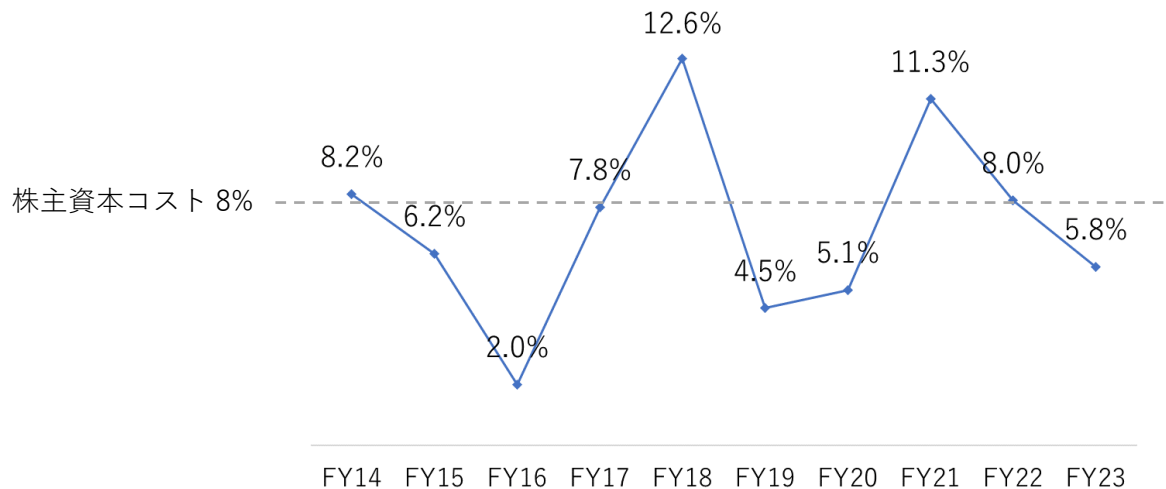
現状認識（低PBRの主要因）

主たる要因は「ROEを安定的かつ十分に高めきれていないことにある」と認識



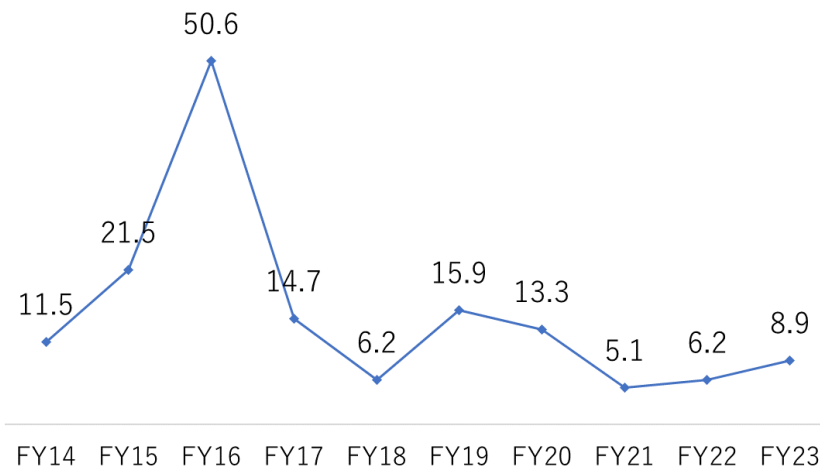
- 当社の株主資本コスト（約8%）を安定的に上回るレベルにない
- 事業の収益性、自己資本の在り方双方に課題ありと認識

ROEの推移（2014~2023年）



- 近年は「割安」で推移。株主や投資家の皆様の期待値の現れと受け止める
- 当社経営方針や事業内容への理解醸成のための取組みに課題ありと認識

PERの推移（2014~2023年）



中長期的に目指す姿

売上・利益面での成長に加え、「ROE＝安定的に10%以上」を重点目標とし、株主還元策と併せて投資家の皆様の期待に応えて行く

中長期的（2035年迄）に目指したい姿

- 売上：750億、営業利益率：10%以上（収益性向上）
- ROE：10%以上（株主資本コスト※1を安定的に上回る水準）
- ROIC：8%以上（WACC※2を安定的に上回る水準）
- 配当方針：累進配当＋DOE3%以上（2～3年以内に3%を目指し、その後も高めることを継続検討）
- PBR：1倍以上（早期達成を目指す）

※1 当社の株主資本コストは約8%と推定

※2 現状のWACCは約6%と推定、負債コストは今後上昇すると想定

低PBR改善に向けた取り組みの基本方針

3つの大きな施策～「事業の収益性改革」「財務／資本政策の見直し」「SR／IR強化」に取り組む

1 事業の収益性改革

- 高収益×成長領域への集中と積極投資
 - 化粧品事業拡大・更なる収益性向上のための新工場建設
 - 化学品事業EHD集中戦略の継続推進
- 低収益事業の見直し

2 財務／資本政策の見直し

- 自己資本のコントロール
- 財務レバレッジを効かせる
- WACCの最適化
- 不要資産の整理・圧縮

3 SR／IR強化

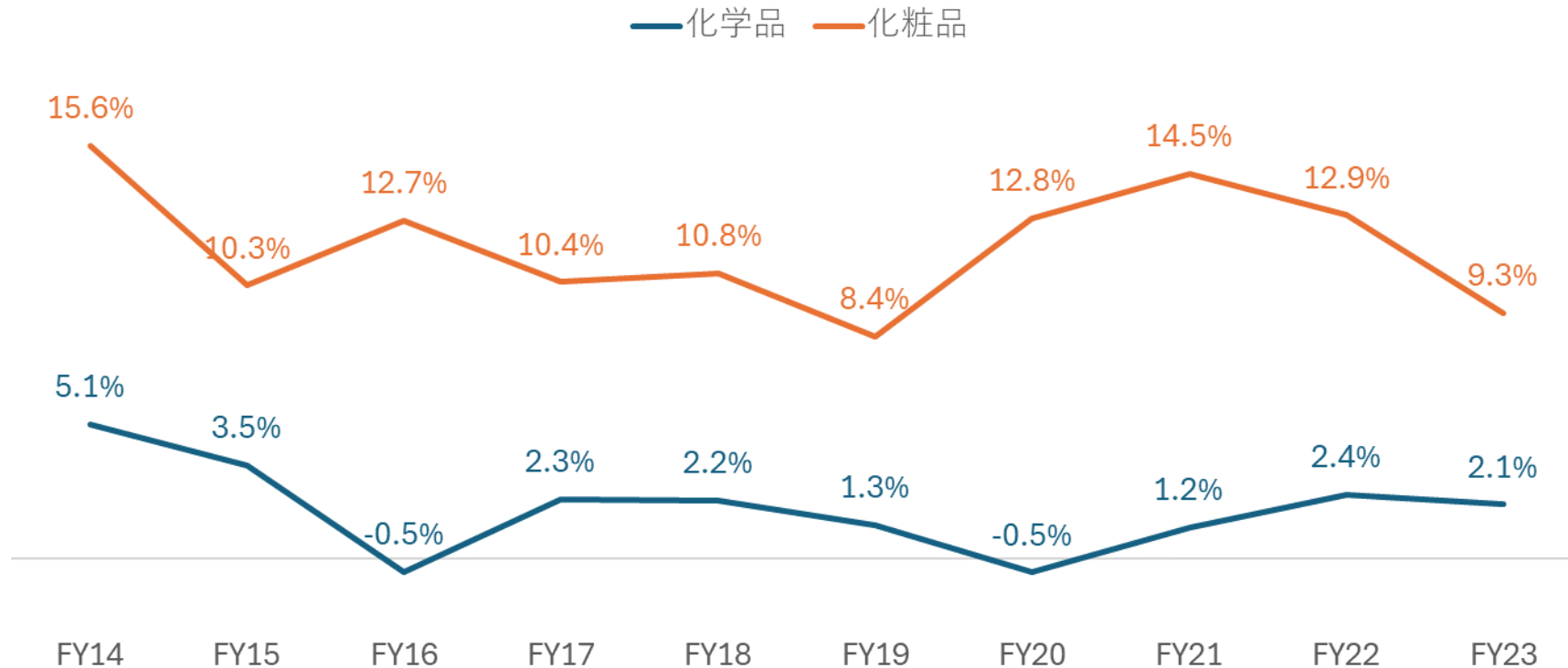
- 株主還元方針の見直し
 - 安定配当方針に加えDOE目標を導入
- 株主及び投資家との対話強化

低PBR改善
3つの取組み

1 事業の収益性改革

事業性質上、化学品（多品種少量×ニッチ展開）に比べて、化粧品事業の収益性は高い

化学品事業及び化粧品事業の営業利益率推移（2014～2023）



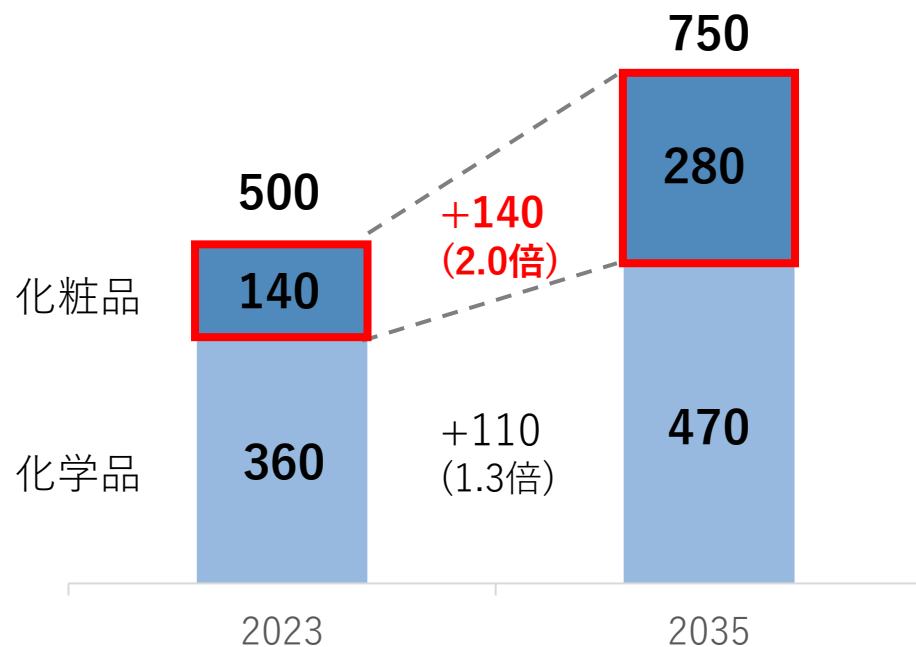
※「化学品セグメント」にその他セグメントを含めて表記しております。
※「消去及び全社セグメント」は化学品・化粧品の各セグメントに配賦して表記しております。

1 事業の収益性改革

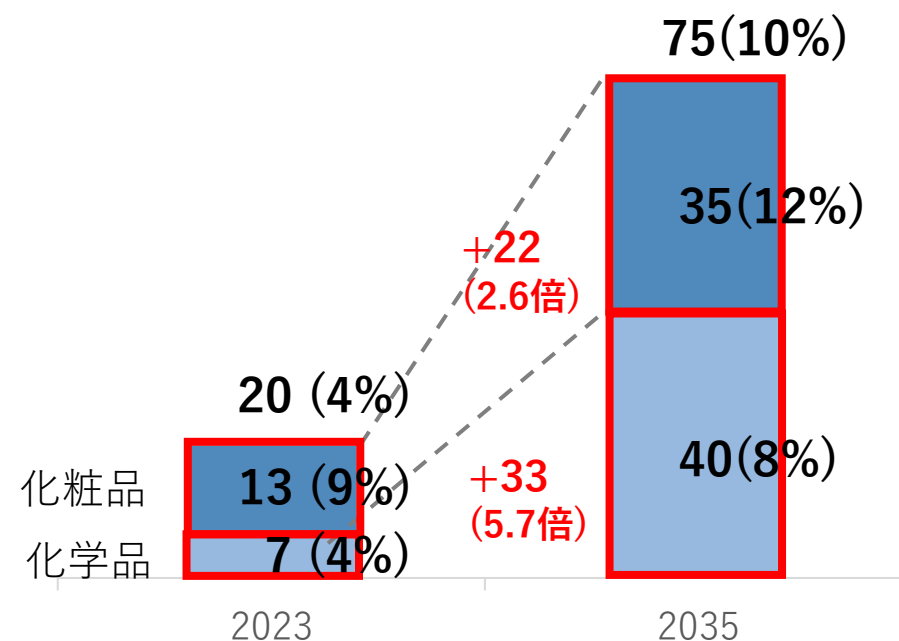
まずは化粧品事業の売上・利益両面での更なる成長により全社の収益性向上の土台を固める。化学品も高付加価値領域集中により利益面で成長を図る

事業成長と構成イメージ (2023年→2035年：億円)

売上



営業利益(ROS)



1 事業の収益性改革／化粧品事業

国内市場でシェア拡大と海外強化。生産機能の大幅見直しが喫緊の課題

1. 化粧品（ヘアケア剤）事業環境※

◆ ターゲット市場の成長は底堅い

- 国内業務用ヘアケア剤市場は底堅い
 - 市場規模:1,126億円（23年）、CAGR:6%（11年→23年）
 - 他剤（スタイリング、パーマ、カラー）が減る中で、底堅く推移
- 国内ODMヘアケア剤市場は、高付加価値・高単価化と共に伸長
 - 市場規模:800億円（23年）、CAGR:3%（18年→27年予想）
- 今後は近隣アジア諸国での市場が大きく成長



◆ 当社にとっての伸びしろは大きい

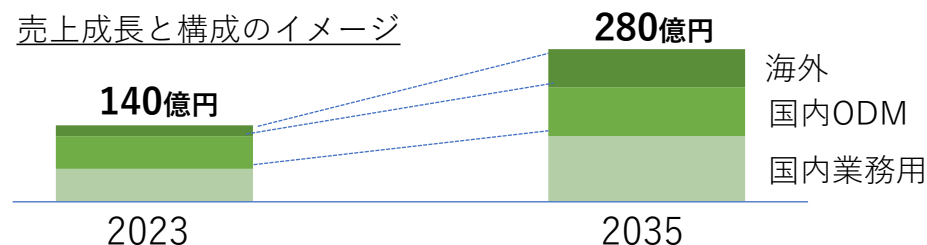
- 当社技術・製品への評価は高い
- いずれの市場においても当社シェアはまだ小さい（5%程度）

2. 戦略骨子

◆ 国内強化（シェア拡大）＋海外展開加速

- 国内→業務用ヘアケア、ODM向けヘアケア双方におけるシェア拡大
- 海外→韓国（k-beauty）でのシェア拡大、ASEAN市場への新展開

売上成長と構成のイメージ



3. 課題

- ◆ 生産キャパシティ拡大
- ◆ 生産効率化による事業収益ベース大幅改善
- ◆ 営業、デジタルマーケティング強化（先行着手）

※当社調べ

1 事業の収益性改革／化粧品事業

化粧品事業の新工場建設計画の概要は以下の通り

本格稼働：2027年

投資規模：約195億円

建設予定地：福井県福井市

建築面積：約10,000㎡ 延べ床面積：約23,000㎡

- 製造キャパシティ大幅アップ（将来の拡張性を確保、設備は段階投資）
- 生産性大幅改善（人時生産性1.5倍）
 - ✓ 24時間稼働
 - ✓ デジタル化・自動化・省人化
- 在庫回転月数の低減
- 働きやすい職場環境
- 環境対応工場
 - ✓ 太陽光発電（現工場の7割近くの電力をカバー）
 - ✓ CO2排出削減、排水量削減等



イメージパース図

※記載内容は現時点での予定となります。

1 事業の収益性改革／化学品事業

EHD集中戦略※1の継続推進により、引き続き収益性を大きく改善

1. 化学品注力事業環境

◆ 主力の繊維加工用ケミカルの市場は、環境対応技術・製品への置き換えにより今後も成長

- 市場全体の成長は堅調（CAGR：2%）※2
- 中でも環境をはじめとするサステナビリティ対応課題向けケミカル市場は大きく成長

◆ 水系ウレタン市場では、自動車、家具・インテリア、その他産業資材向けに於いて、溶剤系からの切り替えが更に進む

◆ 半導体向けケミカル市場は、AI普及などにより成長が更に加速

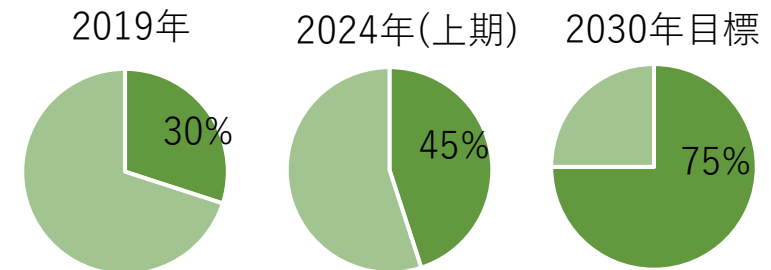
◆ 当社技術による解決可能領域（市場）は増えつつある

2. 戦略骨子

◆ 量より質的成長を目指す

- EHD集中戦略の継続推進
- 当面、①「フッ素フリー撥水剤」（繊維加工）、②「環境対応型工程薬剤・染色助剤」（繊維加工）、③「水系ウレタン」（自動車シート、インテリア、塗料等産業資材）、④「半導体加工用ケミカル」に集中

EHD製品販売比率の推移（※EHD製品の利益率＝従来製品＋10pt）



3. 課題

◆ 低収益・低付加価値製品からEHD傾注領域への経営資源シフト

※1 EHD＝Environment/Health/Digital。2019年以降推進している化学品事業の収益性改善に向けた基本戦略

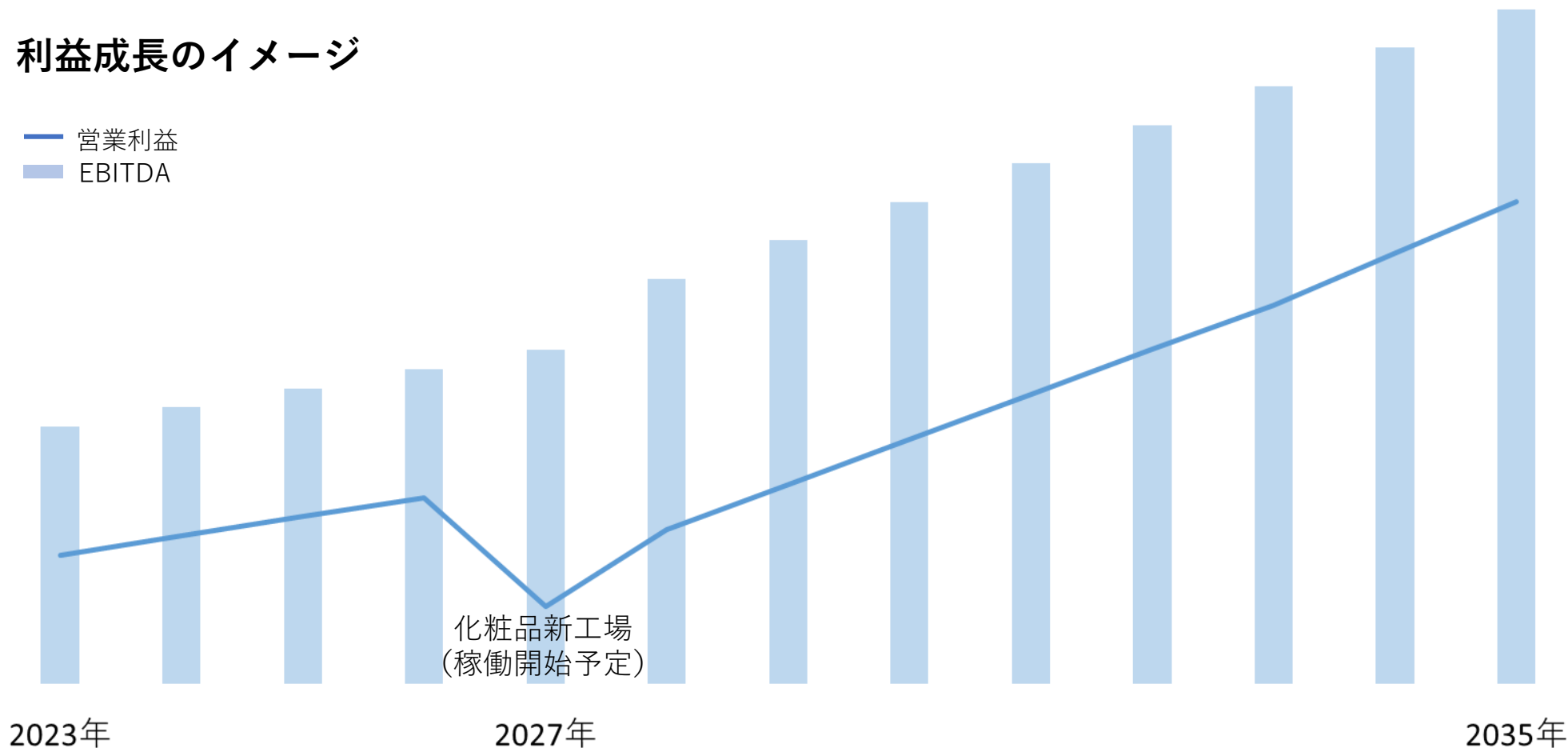
※2 当社調べ

2 財務・資本政策の見直し

化粧品新工場稼働に伴い 27年以降一定期間は償却負担が大きくなるが、
当社の稼ぐ力は、化学品の収益改善と併せて安定的に高まって行く

利益成長のイメージ

— 営業利益
— EBITDA

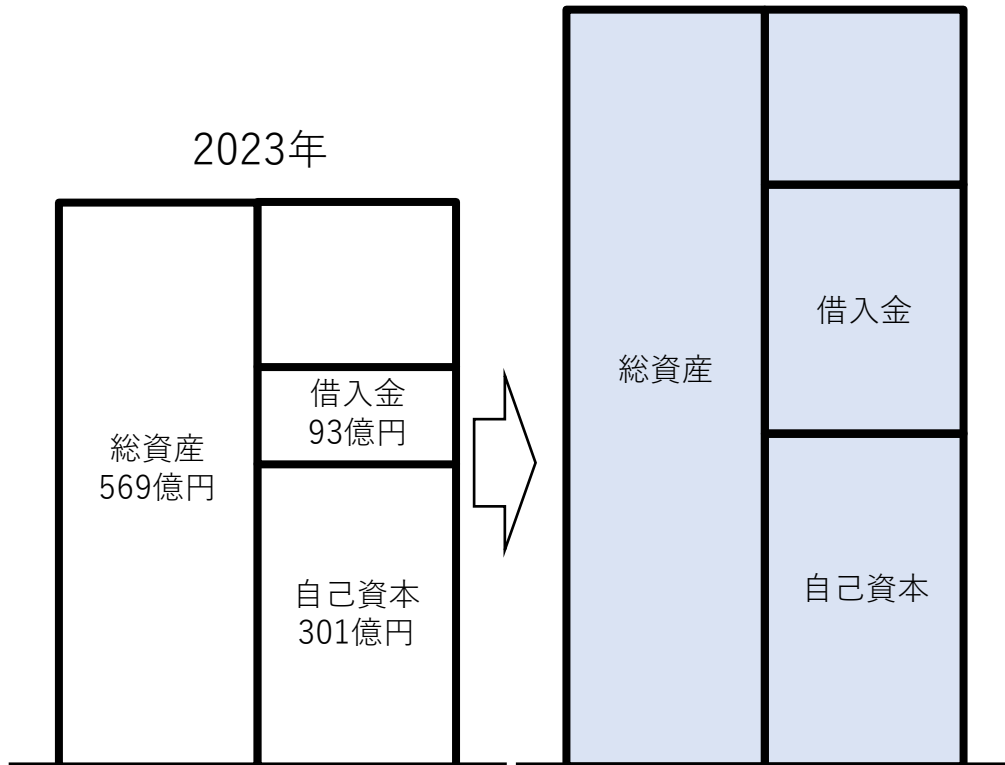


2 財務・資本政策／最適資本構成

ここ数年で強化した財務体質を挺子に、今後はレバレッジを効かせた経営による成長を目指す

B/Sのイメージ

2026年
(化粧品新工場投資後)



〈借入金〉

- 財務レバレッジを効かせた資金として上手く活用
(⇒化粧品新工場)
- WACCを適切にコントロール

〈自己資本〉

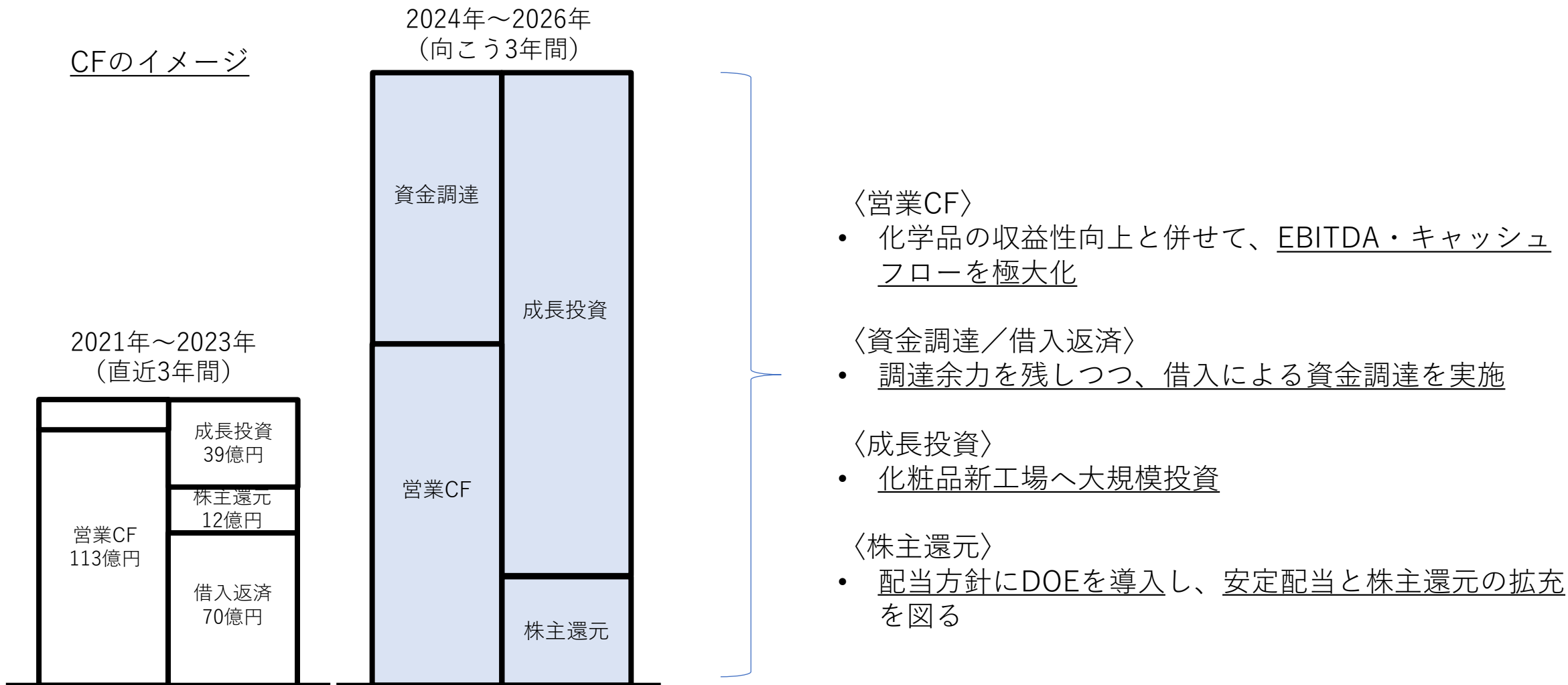
- 経営の健全性とROE双方を意識しつつ自己資本比率をコントロール

〈総資産〉

- 総資産が増える一方で、非効率な資産の圧縮を検討、実施

2 財務・資本政策／キャピタルアロケーション

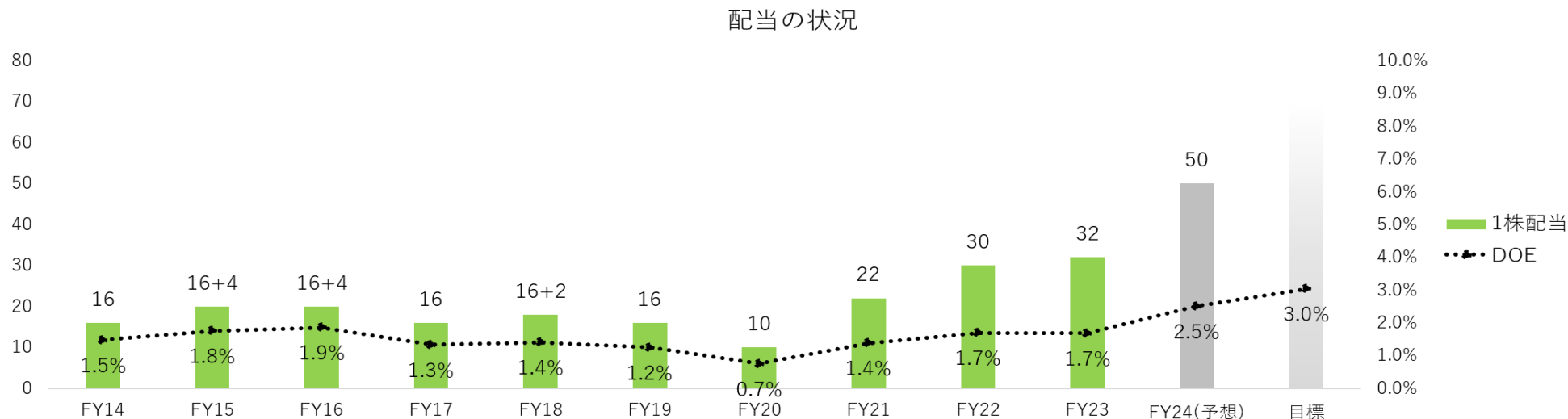
中長期を見据えた大型投資を行う中でも、安定的かつ継続的な配当を実施



3 株主還元方針（SR／IR強化）

株主還元方針を以下の様に変更し、経営方針や事業内容の説明と併せて、株主・投資家からの理解獲得を目指す

	変更前	変更後
基本方針	<u>安定配当</u>	<u>安定配当＋累進配当</u>
目標水準	<u>配当性向30%を目安</u>	<u>2~3年以内にDOE3%を目指し、 その後も高めることを継続検討</u>



中長期的に目指す姿（まとめ）

	現状 (2023年度)	中長期的に目指す姿 (~2035年度)	
売上高	501億円	750億円	✓ 規模より事業PF変革を重視
営業利益率	4.1%	10%以上	✓ 高付加価値事業に傾注
ROE	5.8%	10%以上	✓ 株主資本コスト*1を安定的に上回る
ROIC	3.6%	8%以上	✓ WACC*2を安定的に上回る
DOE	1.7%	3%以上	✓ 2~3年以内に達成を目指す
PBR	0.5	1.0以上	✓ 早期達成を目指す

※1 当社の株主資本コストは約8%と推定

※2 現状のWACCは約6%と推定、負債コストは今後上昇すると想定

輝け、カガクで。

Activate Your Life

お問い合わせ先

 日華化学株式会社 IR担当

TEL:(0776)25-8584(直通)

Email : matsushima@niccachemical.com

この資料には、2024年7月31日現在の将来に対する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。